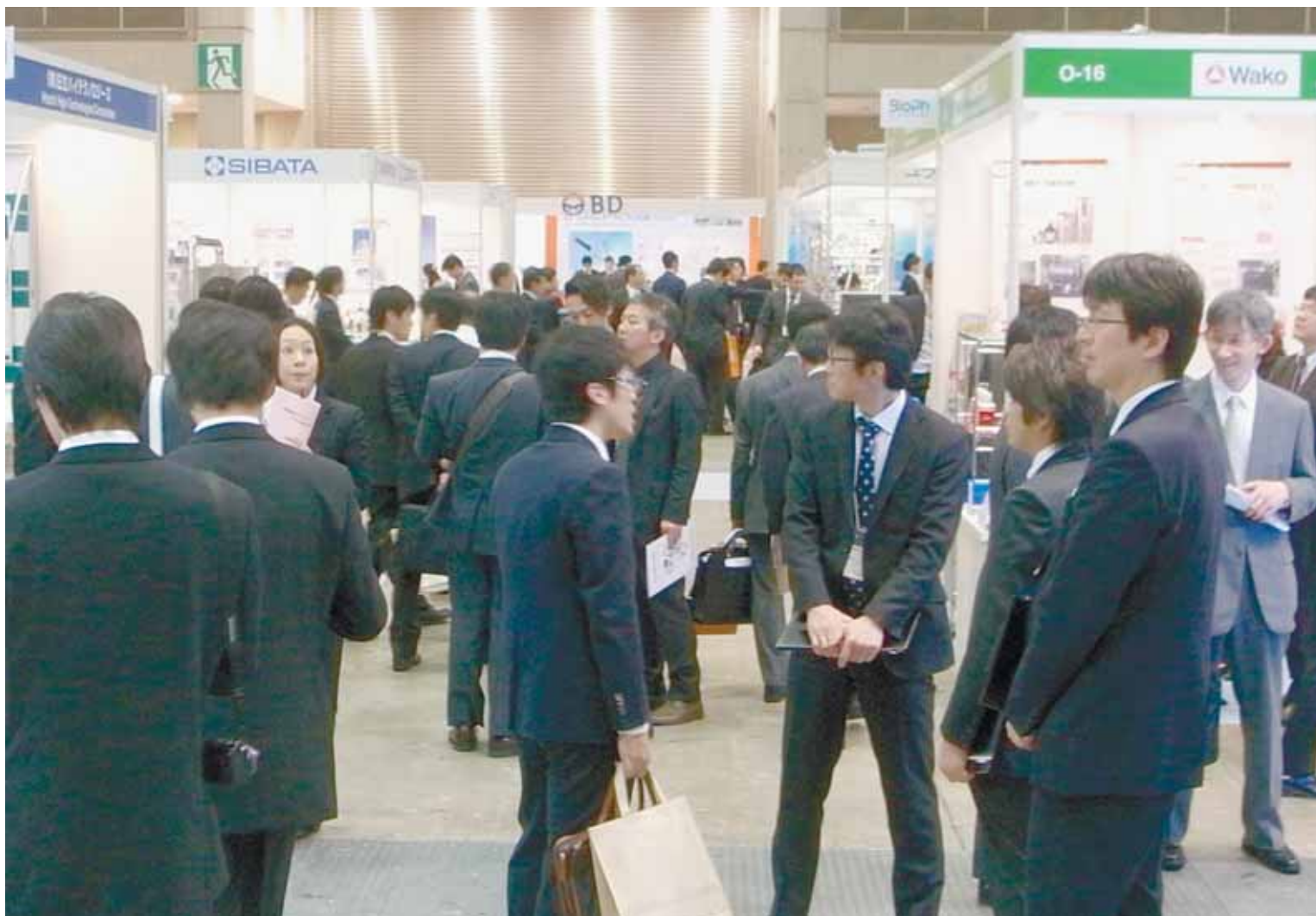




# 化学工業日報

## 第12回 国際医薬品原料・中間体展

4月9～11日 東京ビッグサイトで開催



# グローバルビジネスへの展望 切り開く

第12回「国際医薬品原料・中間体展」(C P h I ジャパン2014)が、4月9日から11日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催される。30を超える国・地域から約500社の関係企業が出展。医薬品原薬や中間体に特化した展示会としては、わが国最大級の規模を誇る。規模の大きさもさることながら、出展各社と来場者とのコミュニケーション醸成が容易な環境にあること、商談や契約に結びつくケースが多いことなど、お祭りの展示会とは一線を画している点にある。グローバルな視点で、医薬品市場を捉える絶好の機会といえる。

国内企業よりも、アジアや欧米からの出展企業が多いのも特異な点だ。ほぼ3対2で海外企業が多い。なかでも、中国や韓国などアジア近隣諸国の有力メーカーが参加しているのは注目される。

医薬品をめぐるビジネスは近年、急速にグローバル化が進展している。原料調達、原薬や中間体の委託生産など、製薬に関わる多様な分野で国際ネットワークが構築され、それらを活用することが事業の優劣を決定づける要因にもなっている。

わが国業界でも、中国や韓国、インドなどの企業との連携が急激に進展。ジェネリック医薬品(後発医薬品)の拡大と平行に拡大している。つれて、これら海外の状況と国内との整合性の問題が表面化しているのも事実で、この克服に向けた対応策が関連する企業では課題になっている。

C P h I ジャパンでは、海外メーカーや商社など多彩な企業が出展しており、海外での状況やGMP対応の現状などについて意見・情報の交換が可能になっている。これも、この展示会の特徴だ。現在抱える問題をいかに解決するか。活発な交流を通じて、ヒントを得てほしいものだ。

国内の医薬品市場での最大の関心事は、ジェネリック医薬品拡大の動向だが、海外の市場なかんずくアジアでの医薬品市場の急拡大にも注目が集まっている。とくに、インドネシアやタイなど東南アジアでの医薬品の普及速度は目を見張るものがある。ここにターゲットを置き始めた企業も増加している。進出に向け、何をなすべきか。それらの情報を得る場として、期待する企業も多い。

また、C P h I ジャパンと同時に開催される、4展示会も注目される。原薬・中間体に関連する装置メーカーをはじめとしてさまざまな業種の多彩な企業が出展しており、課題に対する最適解を得られるよう工夫されている。

### 目次

14面 世界で存在感高める絶好の機会  
日本医薬品原薬工業会会長に聞く  
15面 旭化成ケミカルズ  
東ソー  
協和化学工業  
白鳥製薬  
三栄源エフ・エフ・アイ  
16面 イワキ  
立山化成  
純正化学  
野村事務所

住友商事/住商ファーマインターナショナル  
17面 日本軽金属  
マナック  
ハイカル  
日本曹達  
テバエーピーアイ  
18面 有機合成薬品工業  
川口化学工業  
コア商事  
C B C

重松貿易  
20面 アヅマ  
ワイエムシー  
日光ケミカルズ  
アヌパム・ラサヤン・インドア  
W D B 機能化学  
21面 神戸天然物化学  
ナード研究所/ナードケミカルズ  
中間体商事

### 同時開催

ICSE Japan 2014

製薬業界受託サービスエキスポ

P-MEC Japan 2014

原薬・中間体 機器/装置展

BioPh Japan 2014

バイオフィーマージャパン

Pharmatec Japan 2014

ファーマテックジャパン

# 世界の医薬品市場で存在感高める機会に



## 濃密な情報交流で ビジネス具体的発展

12回目となる今年のCPhIジャパン2014。02年の初開催以来、規模を着実に拡大し、来場者も増加している。医薬品原薬・中間体の特化した展示会で、わが国の業界に根付いた展示会として評価が高まっている。

12回目となる今年のCPhIジャパン2014。02年の初開催以来、規模を着実に拡大し、来場者も増加している。医薬品原薬・中間体の特化した展示会で、わが国の業界に根付いた展示会として評価が高まっている。

## 日本医薬品原薬工業会 白鳥 豊 会長に聞く



政府の成長戦略の目玉として医療・健康産業の育成が掲げられている。その中核を担う医薬品産業を支えているのが高度な技術力や品質管理能力に定評のある医薬品原薬工業各社だ。日本医薬品原薬工業会の白鳥豊会長(白鳥製薬社長)に、原薬産業を取り巻く状況や今後について聞いた。

しかし、ここ数年、韓国やインドなどで発生した原薬製造所のGMP不適合、欠品の発生などは極めて憂慮すべき問題と考へて、実際に供給していくことに尽きる。原薬製造業者は、品質の高い製品を適正な価格で安定的に製造供給する責務がある。国内外の原料・中間体製造業者と連携を取る

品質保証体制さらなる強化を  
GMPの課題究明、解決で協力  
P I C / S 早期  
加盟実現に期待

「日本版N I H」  
業界に追い風  
政府の後押しも期待

健康寿命の延伸が狙えられたことは、医薬品業界の活性化に寄与するものと考えている。とくに「日本版N I H」には、医薬品創出の基礎強化により市場のすそ野が広がる業界に追い風をもたらすのではと期待している。

CPhIジャパンは、2002年の初開催から年々規模を拡大しており、今年の「CPhI2014」は、世界30カ国の国と地域から約4500社の出展、1万5000人を超える来場者を予定しているとの聞いている。製薬産業の関係者が一堂に集まるものであり、新たな技術の発見、ビジネスチャンス創出の絶好の機会であると思われ、われわれ原薬製造業者としては、会員企業が有している技術優位性やグローバル基準に適合する品質保証体制を積極的にアピールしていきたい。

市場変化も予想され、総医療費の抑制などに加え、新薬の承認数や大型薬の減少にもなると、製薬企業の意識も品質と価格のバランスを重視するよう変わっていくものと考えられる。製薬企業が海外からの参入企業を含めた相見積もりで受注業者を決めるこ

理の下で製造された高品質の医薬品を安価に供給できる企業が市場価値を認められる時代となっている。原薬製造業者としては、コストダウンに対応する一方、品質管理体制の強化、開発のスピードアップを同時に実現していかなければならない状況だ。

「日本版N I H」業界に追い風  
政府の後押しも期待  
現政権が掲げる成長戦略のアクションプラン「戦略市場創造」の柱に「国民の

健康寿命の延伸が狙えられたことは、医薬品業界の活性化に寄与するものと考えている。とくに「日本版N I H」には、医薬品創出の基礎強化により市場のすそ野が広がる業界に追い風をもたらすのではと期待している。

CPhIジャパンは、2002年の初開催から年々規模を拡大しており、今年の「CPhI2014」は、世界30カ国の国と地域から約4500社の出展、1万5000人を超える来場者を予定しているとの聞いている。製薬産業の関係者が一堂に集まるものであり、新たな技術の発見、ビジネスチャンス創出の絶好の機会であると思われ、われわれ原薬製造業者としては、会員企業が有している技術優位性やグローバル基準に適合する品質保証体制を積極的にアピールしていきたい。

## 海外企業、日本市場に熱視線

勢は鮮明になりつつあり、一方国内企業に目を転じると、足元の国内市場の確保はもろろだが、急速に市場が拡大している。医療品メーカーにとっても、シネリック医薬品(後発医薬品)市場が急拡大する予想される。当社は、事業展開のうえに、海外企業は熱い視線を送っており、原料の供給、原

## 国内企業、アジア展開本格化

海外展開を志向するメーカーにとっても、アジア市場でネットワークを構築する商社などが数多く参加。アジア進出に向けてのリスク、その回避などについて情報交換できることも、具体的なマーケティングへと発展させることも可能だ。CPhIジャパンに出展する企業の関係者も、「来場者、出展企業の関係者らと気軽に話し合えることが大きな魅力。そこから具体的な商談に結び付いたケースもいくつかある」という。

## 時宜に即した内容に

多彩なカンファレンスや講演

このような事態が生じないようするために、内外の関連企業、業界団体が連携していくことが必要とされる。パネルディスカッションでは、わが国の関連業界団体や企業、中国の業界団体幹部を交えて意見交換がなされる予定だ。カンファレンスでは、再生医療など最新の医療技術や断され日本への原薬供給も予定されている。

CPhIジャパンの特色の一つに、さまざまなカンファレンスや講演が組まれていること。その時々の課題を抽出し、有効な情報を提供すること

定評がある。今年のカンファレンスのなかで注目されるのは、10日前中に開催される特別講演「国際ネットワーク構築のためのパネルディスカッション」だろう。原薬供給における海外サプライヤーの役割が一段と増しているなか、一昨年から昨年にかけ、GMP査察の結果不適合と判断され日本への原薬供給も予定されている。

同時開催 4 展示会も注目の的



CPhIジャパンと同時開催される、4つの展示会も注目の的だ。製薬企業のアウト・ソーシングに対応するための展示会「ICSEジャパン」(製薬業界受託サービスエキスポ)、先端の装置・機器メーカーが軒を並べる「P-MECジャパン」(原薬・中間体製造/装置展)など、受託メーカーや装置・機器メーカーの情報交換などがスムーズに行えるようになっている。



抗体医薬品をはじめとしたバイオ医薬品の開発・製造が急激に拡大するなか、12年に新たに設けられたのが「BioPhジャパン」と「Pharmatecジャパン」。ドラッグ・デリバリー・システムなど最新の動向を知る絶好の機会となっている。先端医薬品もいずれは一般的な医薬品として定着していこう。将来を展望するための情報やヒントを得る場として注目される。